

なぜ台湾の人たちが単に“台湾です！”と聞いた瞬間、なみだがでるほど喜んだのですか？

7月23日（土）に行われた東京オリンピックの開会式のことでした。各国選手団入場式で、現場では無観客ですが、オリンピックに参加する205の国々と地域では、何億人ものテレビ視聴者があり、自国の選手の入場を待ち続けていました。選手エントリーの順番はアルファベットではなく五十音順でした。五十音に詳しくない外国の視聴者は自分の国の選手がいつ入場するか、はっきり分かりませんでした。

台湾は1976年から、中国政府の政治操作の下、中華民国ではなく、台湾でもなく、チャイニーズタイペイ(Chinese Taipei)の名前で参加してきました。だから、五十音順によって、中国の後で入場するべきでしたが、意外にも、中国の選手団より先に入場しました。なぜかといえば、名前の順番は台湾にしたからです。

台湾の選手団が入場した途端に、NHKの和久田麻由子アナウンサーが“台湾です！”と叫びました。和久田アナウンサーのはっきりとした一言が、チャイニーズタイペイはどの国かと困惑している多くの日本の視聴者を驚かせて、長い間、国際的イベントで、自国の名前さえ使われずにいた台湾の人たちを大変喜ばせました。

台湾の人口は2,300万で、世界で57位です。GDPは世界で20位ですが、台湾と言う名前はオリンピックではともかく、ほかの小規模なスポーツイベントに参加する時でさえもほとんど使われませんでした。そのうえ、最悪なことに、今全世界が苦しんでいるパンデミックを取り扱っているWHOにも加入参加できていません。

和久田アナウンサーの軽い“台湾です！”の一言が、台湾の方にとって意味深く、台湾にかかわっている人々と国々の目を覚まし、台湾が五輪の参加だけではなく、経済的、政治的、文化的な世界の中での存在をも思い出させてはくれませんか。